

金目川の魚類

この本に載せた写真の魚は
すべて金目川でつかまえたものです



アユカケ

金目川で記録のある魚
全 60 種を掲載！

著:西巻 肖・北野 忠

(東海大学 教養学部 人間環境学科)

編集協力:金目川水系流域ネットワーク

はじめに

私は神奈川県秦野市で生まれ育ち、幼いころから生き物が好きで近くの水田や小川で様々な水生生物を採集して遊んでいました。また小学生になると、放課後に学校近くの金目川水系の上流で釣りをしていました。そこでヤマメを釣り、そのときの感触と感動を今でも覚えています。このように、幼少期を金目川とともに過ごしてきました。金目川は、ほかの河川と比べて決して大きい川ではありませんが、多くの魚類が生息しています。

現在、私が通っている東海大学湘南キャンパスのすぐ近くにも金目川が流れており、そこでは金目川の生物を題材にした環境教育活動が数多く実施されています。このような環境教育の際に、その場所に住んでいる生き物だけを扱った資料があれば効果的な活動ができるのではないかと私は考えてきました。また金目川の魚類相や分布を明らかにすることは、神奈川県における河川魚類相の解明、そして市民団体などによる環境保全の基礎的な知見として重要です。そのため金目川で1年間かけて魚類を採集するとともに、過去に研究室の先輩方が集めた資料や文献も合わせ、どのエリアに何がいたのかを明らかにし、それを用いてこの図鑑を作成しました。

私にとって幼いころからなじみのある金目川と、そこにすむ魚類について多くの方に少しでも知ってもらえれば嬉しく思います。

西巻肖(東海大学 教養学部 人間環境学科)

目次

はじめに	1
金目川とは	3
本書の説明	3
ウナギ科	5
コイ科	6
ドジョウ科	16
フクドジョウ科	18
ナマズ科	20
アユ科	21
サケ科	21
ヨウジウオ科	23
ボラ科	23
メダカ科	24
カダヤシ科	24
コチ科	25
シマイサキ科	25
ユゴイ科	26
カジカ科	27
カワアナゴ科	29
ハゼ科	30
タイワンドジョウ科	41
資料	42

付録

参考文献	43
さくいん	45
協力者・あとがき	46

金目川とは

金目川およびその支川は伊勢原、秦野、平塚の3市および大磯町を流れる2級河川である。流程は約20kmで途中いくつもの支川が枝状に広がっている。主な支川としては鈴川、渋田川があり、そのほかにも室川、水無川、葛葉川などが知られる。なお、本書では単に「金目川」と表記した場合には、支川も含めた流域全体を指すこととし、「鈴川水系」および「渋田川水系」を除く、金目川本流と周辺の支川を含めた「金目川水系」と区別した。

流域は神奈川県最大の水田稲作地帯であり、その生産を支える重要な川であるが、かつては10年に一度の割合で洪水の記録が残る川であった。河底が高く、取水しやすい反面、水害の危険も高く、比較的急流であったため金目川は、「あばれ川」ともいわれていた。河口付近で大磯町と平塚市の行政界が金目川の流路と一致しないのは、洪水の影響で川の位置が頻繁に変わったことの名残だといわれている。なお、神奈川県環境科学センター(2014)によれば、神奈川県内で金目川は比較的魚種の多い2級河川であることが明らかとなっている。

現在では、中下流部などは市街地を流下していることから、河川環境に対する市民の関心も高く、本書の編集協力団体でもある金目川水系流域ネットワークをはじめ、そのほか様々な団体により環境保全や活動教育活動が実践されている。

本書の説明

1. 掲載順序および学名・和名

本書における各魚種の掲載順序は、「日本産魚類検索 全種の同定 第三版(東海大学出版会)」に従った。なお、掲載魚種の学名および和名についても同書を参考にしたが、和名の変更(シマドジョウ→ヒガシシマドジョウ)、フグドジョウの学名の変更については、中島(2017)、中島ほか(2012)に従った。

2. 掲載対象

掲載対象は、著者である西巻が卒業研究として実施した「金目川での魚類の生息状況」の調査で採集された魚種とした。ただし、本年度の調査では得られなかった種については、当研究室における過去の調査で得られた標本や写真を用いた場合もある。そのほか、文献上で過去に金目川において採集された記録がある魚種についても“資料”として掲載した。

3. 図鑑の写真

この図鑑に掲載した魚類の写真は、すべて金目川において採集した個体を撮影したものである。

原則として、採集後研究室に持ち帰り直ちに撮影したが、採集時に小さかったり傷ついたりした個体については、水槽内でしばらく飼育した後に撮影した場合もある。また、特定外来生物に指定されているカダヤシについては採集後現地にて撮影した。

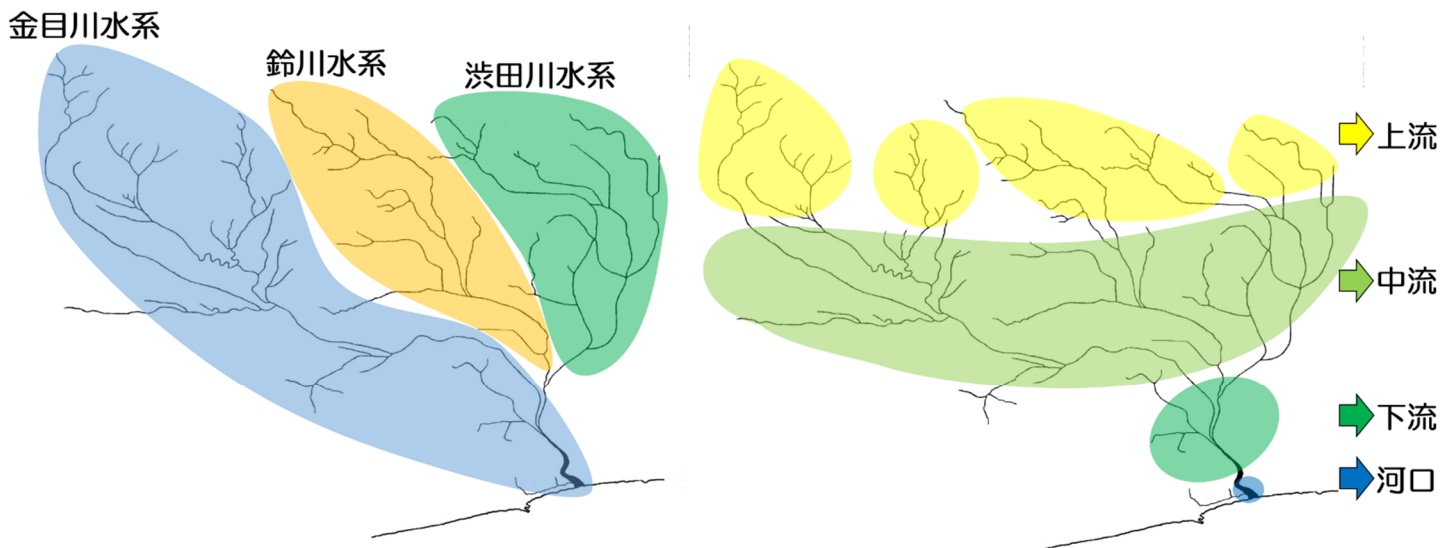
4. 解説

“全長”については「山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚(山と溪谷社)」、「特徴」については、同文献のほか、「日本産魚類検索 全種の同定 第三版(東海大学出版会)」、中島ほか(2012)など各種文献を参考にし、できるだけ分かりやすい言葉に置き換えて紹介した。

“水系ごとの分布”の表については、金目川を以下の図のように金目川水系・鈴川水系・渋田川水系と3区分した。

“生息環境”の表については、金目川を以下の図のように上流・中流・下流・河口と4区分としたほか、水田およびその周辺の水路を加えた5区分において、実際に確認できた環境に○をつけた。

また、研究室での実際の調査において直接確認はできなかったものの、文献上で記録がある場合には△とした。なお、文献上で聞き取りにより分布の可能性を示唆している場合には?とした。



“特記事項”および“金目川での状況”については、自身の調査結果のほか、「神奈川県レッドデータ生物調査報告書(神奈川県立生命の星・地球博物館編)」、「神奈川県内河川の魚類(神奈川県環境科学センター編)」など各種文献を参考にした(これらの文献についてはまとめて43・44ページで紹介)。また、金目川水系での見つけやすさを5段階に分け、☆の数で表した(☆が多いほどみつけにくい)。

ウナギ目 ウナギ科

ニホンウナギ *Anguilla japonica* Temminck and schlegel, 1847

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	○	



金目川水系・中流・2017年11月15日・西巻

【全長】

50~100 cm

【特徴】

体はとても細長い。体色は背中側は黄褐色から黒色で、腹部側は白色から黄白色をしている。

内陸部を除くほぼ全国に分布する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河口まで広い範囲で見られる。

流れが緩やかな場所の植物の根際や岩の下などに隠れていることが多い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

個体数は少なくないが、物陰に隠れているため見つけにくい。

コラム:ウナギのつかみ採り

北野研究室では、平塚市主催の「ひらつか環境フェア」や横浜ゴム株式会社平塚製造所による「Think Eco ひらつか」といった環境イベントにおいて、金目川に生息する淡水魚を出展するのが毎年の恒例になっています。このイベント時には「うなぎのつかみ採り」コーナーも併設しますが、お子さんにとても人気でいつも人だかりができます。

ウナギにとってはいい迷惑でしょうし、虐待だと思える方もいらっしゃるかもしれません。でも、金目川やそこに住む生きものに関心を持ってくれる良い機会だと私たちは考えています。ちなみにウナギはとても丈夫で死ぬことはなく、イベントの帰りには金目川に寄り、お礼を言いながら逃がしています。



コイ目 コイ科

国内外来種？国外外来種？

コイ *Cyprinus carpio* Linnaeus, 1758

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
○	○	○	○	



金目川水系・中流・2012年9月13日・北野

【全長】

50～100 cm

【特徴】

フナと比べると体はやや細長く、口には2対のヒゲがある。古くから放流が盛んなため自然分布は不明であるが、全国的に分布する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、上流から河口まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆

個体数はそれほど多くはないが、日中、大型の個体が泳いでいる姿を観察することができるため非常に見つけやすい。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **情報不足**

食用および観賞用としてさかんに養殖されているほか、各地で放流されている。以前は、体高が高い飼育型と体高が低い野生型に分けられていたが、近年の研究により、飼育型はユーラシア大陸や台湾、インドネシア起源の国外外来種であることが明らかとなっている。

神奈川県でも移植放流が盛んなため在来個体群と放流個体群の区別はできていない。

フナのなかま *Carassius* spp.

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
○	○	○	△	○



金目川水系・上流・2014年9月20日・北野



金目川水系・下流・2017年12月15日・西巻

【全長】

15～40 cm

【特徴】

コイに似るがヒゲがない。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、上流から河口まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

個体数はそれほど多くはないが、流れの緩やかな場所で、たも網を用いた採集

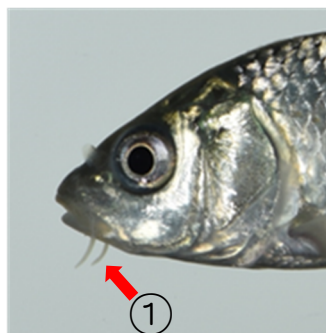
をすると見つけることができる。

【特記事項】

金目川では過去にキンブナとギンブナの記録があるほか、国内外来種のゲンゴロウブナも分布している可能性がある。しかしフナのなかまは種を判別することが難しいため、ここではひとまとめにして「フナのなかま」とした。

見分け方:コイとフナ

コイ



フナ



コイとフナはよく似ていますが、写真のようにコイの口にはヒゲがある①ことで簡単に区別できます。このほか、顔つきや体型、背ビシの形などでも、慣れれば見分けることができます。

コイ目 コイ科

国内外来種？

オイカワ *Opsariichthys platypus* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	△	



♂2017年7月26日

♀2017年7月14日

幼魚 2017年9月24日

いずれも鈴川水系・中流・西巻

【全長】

12～15 cm

【特徴】

繁殖期のオスはとても美しい。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河口まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆

動きが素早く捕まえにくいですが、個体数は多く見つけやすい。

【特記事項】

金目川の個体群が在来種か外来種かは明らかになっていない。

国内外来種

カワムツ *Candidia temminckii* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
		○

上流	中流	下流	河口	水田
	○			



渋田川水系・中流・2017年11月12日・西巻

【全長】

15～20cm

【特徴】

オイカワより体に厚みがある。

【金目川での状況】

金目川では2017年11月に初めて確認された。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

産地も限られ、個体数も多くはない。

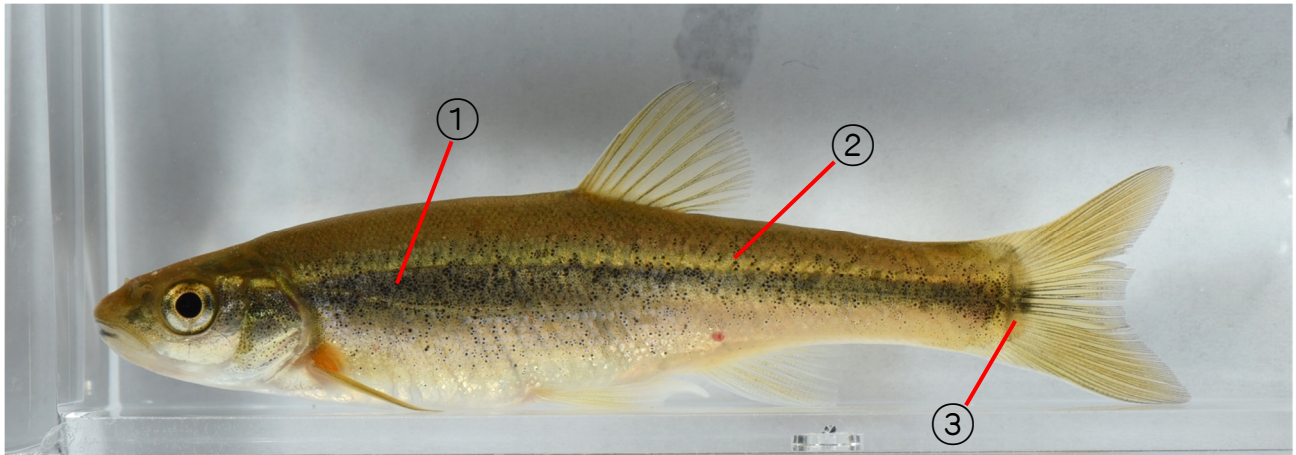
【特記事項】

西日本原産の国内外来種である。

アブラハヤ *Phoxinus lagowskii steindachneri* Sauvage, 1883

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
○	○	△		



金目川水系・上流・2017年5月27日・西巻

【全長】

8～15cm

【特徴】

体は細長く、ウロコが非常に細かい。体色は黄色みがある茶色で、はっきりとしない黒いスジがあり①、そのすぐ背中側には金色のスジがあることが多い②。尾ビレのつけねに黒いもようがある③。

岡山県より東の本州に分布するほか、近年は国内外来種として北海道にも定着している。

一般には河川中流域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、上流から中

流まで広い範囲で見られる。金目川では特に上流に多く、下流でもおそらく増水時に流下したと思われる個体が見つかることもある。

流れが緩やかで、植物の多いところや岩かげなどで群れている。

【金目川での見つけやすさ】☆

各支川も含めて、上流では普通にみられ、たも網で容易に採集することができる。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

普通種であるが、神奈川県の都市化が進んだ地域では減少傾向にある。

ウグイ *Tribolodon hakonensis* (Gunther, 1877)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



金目川水系・中流・2017年7月30日・西巻

【全長】

20～50cm

【特徴】

体は細長く、ウロコが細かい。体色は茶色みがある銀色である。写真の個体にはみられないが、繁殖期には3本の赤いスジが目立つようになる。

岡山県より東の本州に分布するほか、近年は国内外来種として北海道にも定着している。

一般には河川中流域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで分布するが、下流では少なく、中流のより上流側で見かけることが多い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

もともと個体数はそれほど多くはない

うえに、堰堤の下や淵など、深い場所に住んでいることが多いことから、たも網による採集ではなかなか捕まえない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

過去には普通種であったが、神奈川県内では都市化、河川改修などにより生息地が減少している。

ウグイには、一生河川で生活する淡水型と、成長の過程で海に下る降海型が知られているが、金目川の個体群がどちらの型に属するのかは明らかになっていない。木村(1988)は金目川水系下流で採集した個体を降海型の可能性が強いと考察し、浜口・林(1983)および永井ら(2005)は純淡水魚(淡水型)として扱っている。

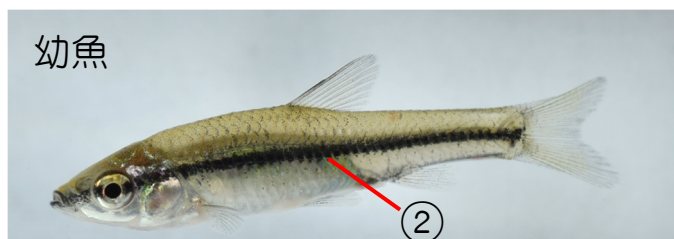
モツゴ *Pseudorasbora parva* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



鈴川水系・中流・2017年10月8日・西巻



金目川水系・下流・2017年6月29日・西巻

【全長】

4～8cm

【特徴】

体は細長い。顔はややとがり、口は上向きなため①、「クチボソ」と呼ばれることもある。体色は茶色みがある銀色であり、幼魚やメスでは体にはっきりとした黒いスジがある場合が多い②が、オスでははっきりしなくなる。

関東より西の本州、四国、九州に分布するほか、国内外来種として日本全国に分布する。

一般には河川中、下流域のほか、湖や池などの止水域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られる。

流れが緩やかな場所や、流れのない場所を好む。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

金目川水系や鈴川水系では少ないが、渋田川水系には多い。

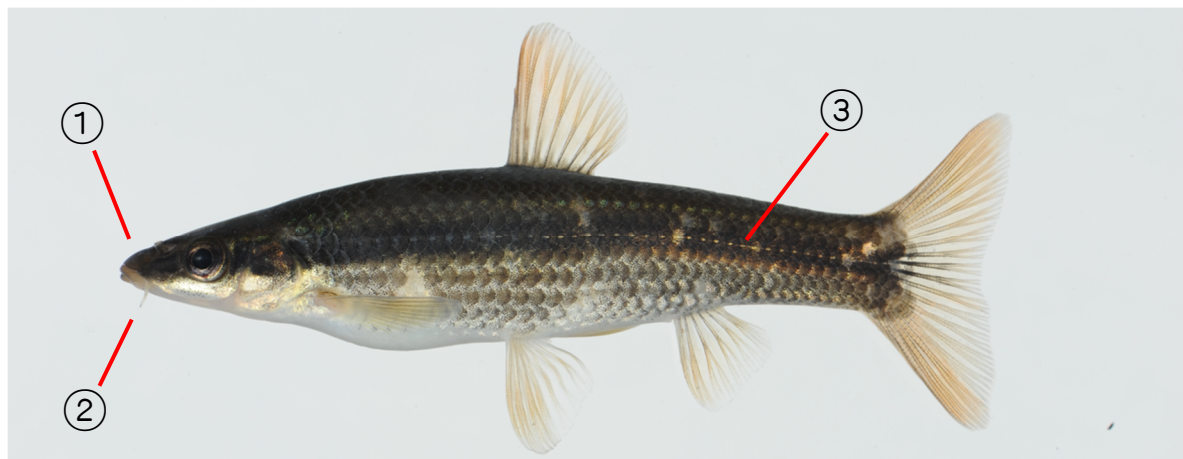
コイ目 コイ科

国内外来種

ムギツク *Pungtungia herzi* Herzenstein, 1892

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		△

上流	中流	下流	河口	水田
	○			



金目川水系・中流・2010年3月12日・北野

【全長】

8～15cm

【特徴】

体は細長く、ややずんぐりしている。顔はとがり①、口には1対のヒゲがある②。写真の個体では分かりにくいだが、口から尾ビシの付け根まで黒く太いスジがある③。

濃尾平野、福井県より西の本州、四国東部、九州に分布する。

一般には河川中流域の流れの緩やかな河川に生息する。

2008年から2010年にかけて金目川本流と渋田川水系歌川で計3個体が確認されたのみである。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

最近は見つかっていない。

【特記事項】

本来は西日本に分布し、神奈川県には琵琶湖産アユの放流にともなって侵入した国内外来種である。ただし、金目川には記録の残るアユの放流はなく、侵入の由来は不明である。

【金目川での状況】

コイ目 コイ科

国内外来種

タモロコ *Gnathopogon elongatus elongates* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		○



金目川水系・中流・2010年3月12日・北野

【全長】

5～9cm

【特徴】

体は細長く、ややずんぐりしている。口には1対のやや長いヒゲがある①。体色は茶色みがある銀色であり、尾ビシの付け根には小さな黒いはん点があることが多い②。

静岡県より西の本州と四国に分布するほか、国内外来種として各地に定着している。

一般には河川中、下流域のほか、湖や池などの止水域にも生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られる。水田わきの水路など、小規模な水域で見られる場合もある。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

金目川水系では少ないが鈴川水系や渋田川水系では比較的普通に見られる。

【特記事項】

本来、神奈川県内には分布していなかった国内外来種と考えられる。

コイ目 コイ科

ニゴイ *Hemibarbus barbus* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	△	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	△	



金目川水系・下流・2018年3月5日・西巻

【全長】

30～50cm

【特徴】

体は細長いがやや体高があり、顔はとがる①。口は下についており、写真では分かりにくいですが、1対のヒゲがある②。体色は茶色みがある銀色である。

砂底を好み、流れの緩やかな川底近くに多い。

琵琶湖より東の本州、山口県と九州北部に分布する。

一般には河川中、下流域のほか、湖や湖沼に生息する。汽水域にも出現することがある。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られるが、個体数は少ない。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

もともと個体数は少ないうえに、深い場所にすんでいることが多いことから、たも網による採集ではなかなか捕まえない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **絶滅危惧II類**

神奈川県内では都市化、河川改修などにより生息地が減少している。

カマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	△	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



金目川水系・下流・2017年12月15日・西巻

【全長】

12～20 cm

【特徴】

体は細長くずんぐりしているが、顔はとがる①。口は下についており、1対のヒゲがある②。体色は茶色みがある銀色であり、複雑な黒色の模様がある。

砂礫底に生息し、砂に潜っていることが多い。

山形県と岩手県より南の本州、四国、九州に分布する。

一般には河川中、下流域、農業用水路などに生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下

流まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

渋田川水系では普通に見られるが、金目川水系、鈴川水系ではあまり見られない。

砂底に隠れているため、植物の根際や岩の下など、多くの魚が隠れている場所でのたも網による採集では得られないこともある。流れが緩やかで砂底があれば、本種(とヒガシシマドジョウ)を狙って網を入れると見つかることが多い。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

金目川の個体群が在来種か国内外来種かは明らかになっていない。

コイ目 ドジョウ科

ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor, 1842)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
○	○	○		○



金目川水系・水田・2018年3月6日・西巻

【全長】

10～30cm

【特徴】

体は細長く、口に5対のヒゲがある。尾ビレは丸い①。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、上流から下流、水田など広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

水田や周辺の水路で普通に見られる。

その他の総合対策外来種

カラドジョウ *Misgurnus dabryanus* (Sauvage, 1878)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○		



金目川水系・下流・2016年8月28日・北野

【全長】

10～30cm

【特徴】

ドジョウに似るが、ヒゲが長い①。

【金目川での状況】

金目川水系の下流でのみ確認されているが、ほかの地点でも見つかる可能性は高い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

現在のところ、個体数は少ない。

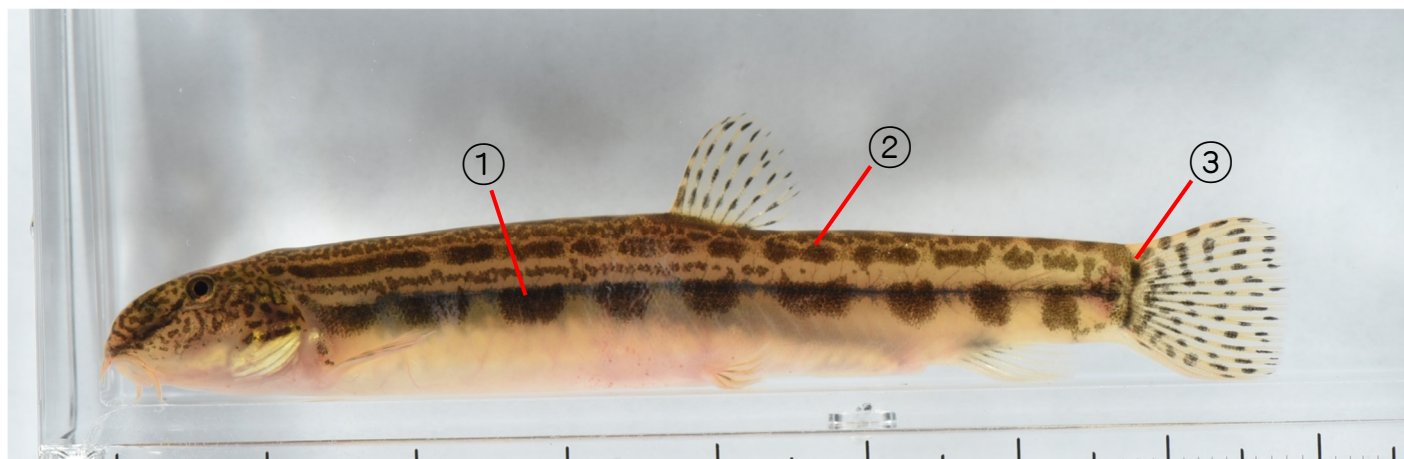
【特記事項】

中国大陸原産の国外外来種である。

ヒガシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type C

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	

上流	中流	下流	河口	水田
○	○	○		



金目川水系・上流・2017年5月27日・西巻

【全長】

6~10cm

【特徴】

体は細長く、口に3対のヒゲがある。体色は黄色みがある茶色で、体には黒い班紋が並び①、背中側には複雑な模様がある②。尾ビシの付け根にも細くて黒い模様がある③。

流れの緩やかな砂底もしくは砂礫底に生息し、砂にもぐっていることが多い。

静岡県と富山県より東の本州に分布する。

一般には河川中流域に生息する。

【金目川での状況】

金目川水系と鈴川水系に分布し、上流から下流まで広い範囲で見られる。

渋田川水系での記録は確認できなかったが生息している可能性は高い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

上流から下流まで、流れが緩やかで砂が堆積している場所であれば見られることが多い。

砂底に隠れているため、植物の根際や岩の下など、多くの魚が隠れている場所でのたも網による採集では得られないこともある。流れが緩やかで砂底の場所で網を入れれば普通に見つかることが多い。同じような場所にはカマツカも見られるが、本種のほうが広い範囲に分布し、個体数も多い。

【特記事項】

従来、シマドジョウという和名が用いられてきたが、近年分類学的な研究が進み、ヒガシシマドジョウという和名がつけられた。

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

コイ目 フグドジョウ科

国内外来種

フグドジョウ *Barbatula oreas* (Jordan and Fowler, 1903)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
○				



金目川水系・上流・2010年10月15日・屋島

【全長】

8～20cm

【特徴】

体は細長く、口に3対のヒゲがある。ドジョウに似るが尾ビレは角張る①。写真の個体は、体色は黄色みがある茶色で、体にはまだら模様があるが、個体変異が大きく、赤みの強い体色や、まだら模様のない個体も見られる。

従来、北海道に分布していたが、東北地方や関東の一部の河川にも定着している。

一般には河川上～下流域に生息する。

【金目川での状況】

金目川では、2010年8月に金目川本流

の上流で見つかった。その後、金目川上流では優占種といえるほど多かったが近年はほとんど確認できない。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

金目川にはすでに生息していない可能性もある。

【特記事項】

北海道原産の国内外来種である。本州で定着した河川の中で、金目川は最も南に位置する。侵入経緯はわかっていない。

現在、ほとんど確認できない理由としては、うまく繁殖できなかった年があったことや、定期的な駆除活動の効果があったことなどが考えられる。

コイ目 フグドジョウ科

ホトケドジョウ *Lefua echigonia* Jordan and Richardson, 1907

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
○	○			○



金目川水系・水田・2017年5月18日・西巻

【全長】

4～8cm

【特徴】

体は細長く、口に4対のヒゲがある。ドジョウに似るが、よりずんぐりしている。尾ビレは丸い①。体色は黄色みがある茶色で、うっすらと黒いまばらな模様があることが多い。

青森県、岩手県を除く東北地方～三重県、京都府、兵庫県に分布する。

一般には湧水が流れこむ湿地、樹林と水田の間にある沢などに生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、上流から中

流にある水路や水田で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

河川そのもので見られることは少なく、山間部にある水田地帯の水路で見られることが多い。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **絶滅危惧IB類**

神奈川県では、川崎市や横浜市などの都市部では都市開発が進み、多くの生息地が失われている。

里山のシンボリック的存在であり、金目川の源流にあたる秦野、平塚地域の丘陵地には、いくつかの生息地が残されている。

ナマズ目 ナマズ科

国内外来種

ナマズ *Silurus asotus* Linnaeus, 1758

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		○



成魚

金目川水系・中流・2010年11月2日・屋島



幼魚

金目川水系・下流・2017年6月29日・西巻

本州、四国、九州に分布する。東日本の個体は国内外来種と考えられている。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られる。幼魚は田んぼわきの水路で見つかる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

個体数は少ない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **注目種**

関東地方には江戸時代に移植されたと考えられている。

【全長】

50～70cm

【特徴】

口ひげは上下両あごに2本ずつある。

コラム:ナマズの産卵

毎年6月に入ると、田んぼわきの水路に入り込んできたナマズたちが産卵を始めます。何匹かの雄が大きな雌に身体を巻きつけて産卵を促す様子はとても迫力があります。6月下旬にはオタマジャクシそっくりの稚魚の姿が見られるようになります。

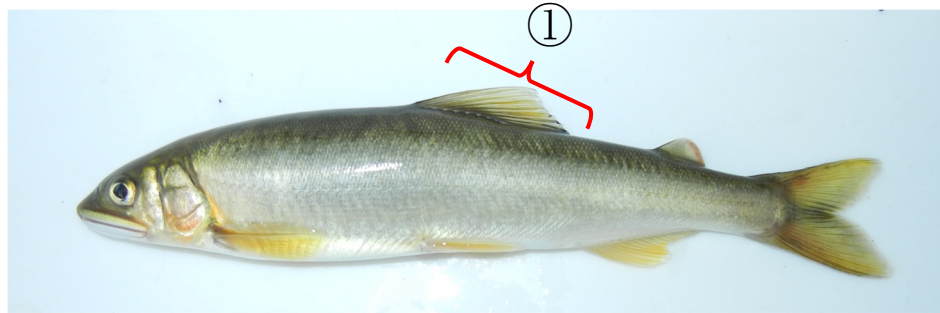


サケ目 アユ科

アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	△

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	△	



金目川水系・中流・2012年9月13日・北野

【全長】

15～25cm

【特徴】

体はやや細長く、背ビレが大きい①。体色は淡いオリーブ色である。

付着藻類を食べ、なわばりをもつ。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河口まで広い範囲で見られる。金目川水系、鈴川水系は特に多い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

個体数は少なくないが、泳ぎが素早くなかなか捕まえない。

サケ目 サケ科

産業管理外来種

ニジマス *Oncorhynchus mykiss* (Walbaum, 1729)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		△

上流	中流	下流	河口	水田
○				



金目川水系・上流・2013年12月15日・北野

【全長】

30～80cm

【特徴】

体には淡いピンク色の模様がある。

【金目川での状況】

金目川水系と渋田川水系の上流で、放流された個体のごくまれに見つかる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

ほとんど見ることはない。

【特記事項】

アメリカ太平洋原産の外来種である。

サケ目 サケ科

国内外来種

ヤマメ *Oncorhynchus masou masou* (Brevoort, 1856)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	△	

上流	中流	下流	河口	水田
○				



金目川水系・上流・2017年10月12日・西巻

【全長】

20～30cm

【特徴】

体には7～10個の楕円の模様が並ぶ。

【金目川での状況】

金目川水系と鈴川水系に分布し、上流に生息する。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

動きは素早く、見つけにくい。

【特記事項】

渓流の釣魚として人気が高く、県全域の河川で放流されている。金目川にもともと分布していたかは不明である。

国内外来種

アマゴ *Oncorhynchus masou ishikawae* Jordan and McGregor, 1925

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
○				



金目川水系・上流・2011年9月14日・北野

【全長】

20～25cm

【特徴】

ヤマメに似るが、体に多数の赤いはん点がある。

【金目川での状況】

金目川水系の上流で確認されている。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

現在はほとんど見ることはない。

【特記事項】

西日本原産の国内外来種で、放流された個体が確認されている。

テングヨウジ *Microphis brachyurus brachyurus* (Bleeker, 1853)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○		



金目川水系・下流・2012年9月29日・北野

【特徴】

体は極めて細長い。
純淡水域の流れの緩やかな水域に生息する。

【金目川での状況】

金目川水系に分布し、下流で確認されている。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

個体数は極めて少ない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **注目種**

【全長】

22～25cm

ボラ目 ボラ科

ボラ *Mugil cephalus cephalus* Linnaeus, 1758

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		△

上流	中流	下流	河口	水田
		○	○	



金目川水系・下流・2017年5月26日・西巻

【特徴】

体色は青色がかった銀色である。胸ビシの付け根は青い①。

幼魚や未成魚が川に上がる。

【金目川での状況】

金目川水系と渋田川水系に分布し、下流から河口まで広い範囲で見られる。下流に多く幼魚は群れをなして泳ぐ。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

河口に近づくほど個体数は多い。

【全長】

35～60cm

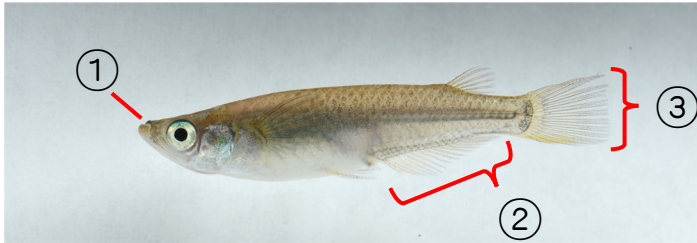
ダツ目 メダカ科

国内外来種

ミナミメダカ(メダカ) *Oryzias latipes* (Temminck and Schlegel, 1846)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



鈴川水系・中流・2017年8月7日・西巻

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

広く分布するが、いずれの場所でも個体数は少ない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 絶滅危惧 IA 類

現在、金目川で見られる個体は放流によるものと考えられる。

【全長】

4~5cm

【特徴】

口は上を向き①、臀ビシの付け根が長い②。尾ビシは丸くならない③。

カダヤシ目 カダヤシ科

特定外来生物

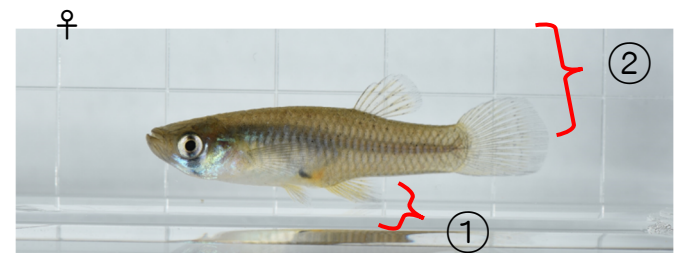
カダヤシ *Gambusia affinis* (Baird and Girard, 1853)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	△	



金目川水系・下流・2017年5月26日・西巻



金目川水系・下流・2016年11月11日・北野

【全長】

3~5cm

【特徴】

メダカに似るが、臀ビシの位置が前にあり、付け根が短い①。尾ビシは丸い②。卵でなく仔魚を産む。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河口まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

個体数は少ない。

【特記事項】

北米原産で、外来生物法により特定外
スズキ目 コチ科

来生物に指定されている。

マゴチ *Platycephalus* sp.

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○		



金目川水系・下流・2012年9月14日・西巻

【全長】

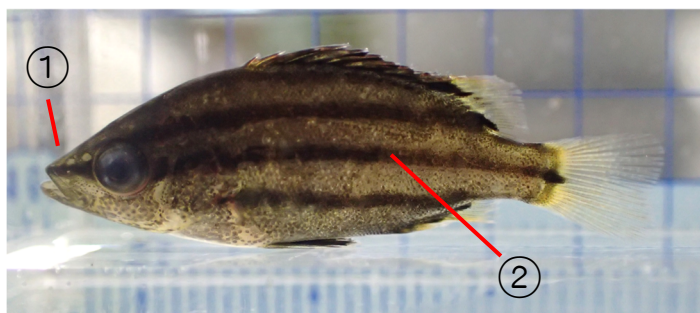
40cm

スズキ目 シマイサキ科

シマイサキ *Rhynchopelates oxyrhynchus* (Temminck and Schlegel, 1842)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○	○	



金目川水系・下流・2015年8月25日・北野

【全長】

20~40cm

【特徴】

口はとがっており①、体には4本の黒い

【特徴】

体は平たい。

砂底に生息する。

【金目川での状況】

下流で確認されている。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

個体数は極めて少ない。

【特記事項】

写真の個体のように、幼魚が河川で見
るかることもあるが、成魚は沿岸域に生
息する。

スジがある②。

南西諸島を除く青森県より南の日本列
島に分布する。

【金目川での状況】

金目川水系の下流と河口で確認されて
いる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

個体数は少ない。

【特記事項】

写真の個体のように、幼魚が河川で見
つかることもあるが、成魚は沿岸域に生
息する。

ユゴイ *Kuhlia marginata* (Cuvier, 1829)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
	○	△		



金目川水系・中流・2011年10月10日・西巻

【全長】

15～40cm

【特徴】

体はやや細長い。尾ビシの先はとがり、黒く縁どられる①。体色は銀色である。

南日本沿岸部に分布する。

【金目川での状況】

金目川水系の中流と下流で確認されている。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

通常は金目川には分布していないが、極めてまれに見つかる。

【特記事項】

仔稚魚は海で生活するが、成長にともない川に遡る。南方系の魚で、神奈川県全体でも記録は少ない。

コラム:採集のルール

金目川には漁業協同組合がないために漁業権が設定されていませんが、魚を採る行為に関していくつかのルールがあります。

神奈川県内水面漁業調整規則により、例えば、1月1日から5月31日までと10月15日から11月30日まではアユの採集が禁止されています。さらに1月1日から3月31日まではカジカの採集が、10月15日から翌年2月末日までヤマメやイワナも採集が禁止されています。

また魚の大きさによる規制もあり、ウナギは全長24cm以下、コイは全長18cm以下、ヤマメ・イワナ・ニジマスなどの渓流釣り対象種なども全長12cm以下の個体は採集が禁止されています。

それ以外にも外来生物法によって特定外来生物に定められている種は、生かしたまま持ち帰ったり、飼育したりが禁止されています。この図鑑に紹介されている種の中なかでは、カダヤシとブルーギルがそれにあたります。そのため、実際に川でカダヤシやブルーギルを捕まえたら、その場ですぐに逃がすか、持ち帰りたい場合にも、その場で締める必要があります。

これらのルールを守って採集をしましょう。

アユカケ(カマキリ) *Cottus kazika* Jordan and Starks, 1904

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		△

上流	中流	下流	河口	水田
	△	○		



金目川水系・下流・2017年7月20日・西巻

【全長】

20～30cm

【特徴】

頭は大きく①、ややずんぐりしている。エラブタには4対のトゲがある。体色は灰色がかった茶色で、3つの黒い班紋がある②。

本州、四国、九州に分布する。

【金目川での状況】

金目川水系と渋田川水系に分布し、中

流と下流で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

個体数は極めて少ないが、以前よりは増えていると考えられる。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **絶滅危惧 IA 類**
堰の影響や水質悪化などにより近年は著しく減少している。

親は河口や海に下り、産卵する。
別名カマキリともよばれる。

コラム:増えている?アユカケ

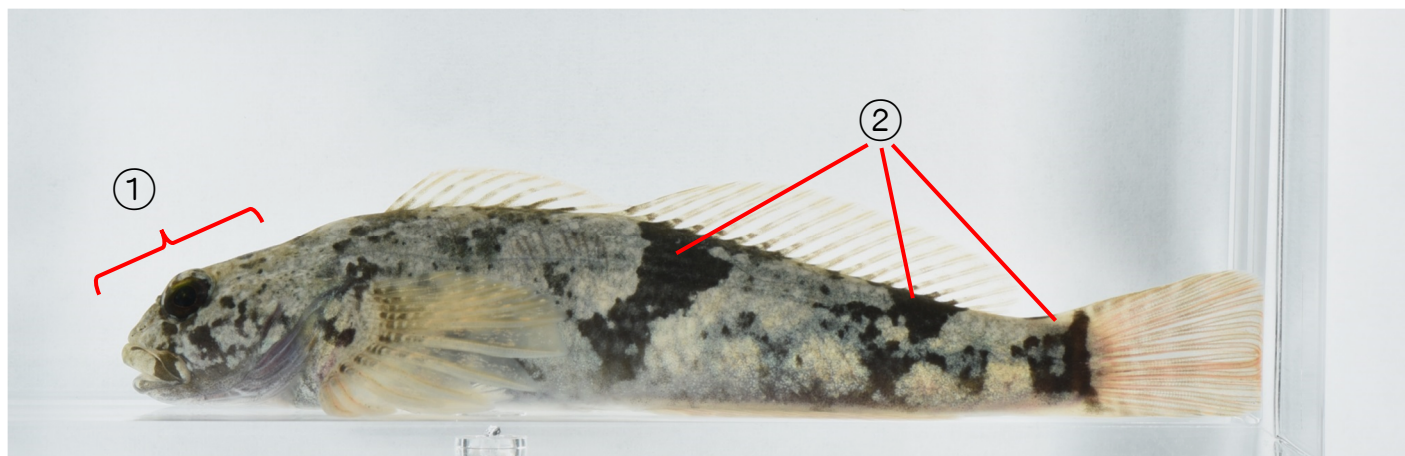
ここ数年の間で、金目川ではアユカケが増えたように思います。写真(金目川水系下流・2016年11月10日)のように、時には複数の個体が見つかることもあります。その理由ははっきりしませんが、川がきれいになってきたからかもしれません。今後もこのアユカケがすめるような環境を守っていききたいものです。



カジカ *Cottus pollux* Gunther, 1837

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	

上流	中流	下流	河口	水田
○				



金目川水系・上流・2017年6月26日・西巻

【全長】

10～15cm

【特徴】

アユカケに似るが、頭はより小さく①、体もより細長い。エラブタには1対のトゲがある。体色は赤色がかった灰色で、3つの黒い班紋がある②。

本州、九州北西部に分布し、河川上流域に生息する。

【金目川での状況】

金目川水系と鈴川水系に分布し、上流で見られる。金目川水系では水無川、葛葉川の上流に生息するが、金目川本流の上流では見られない。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

個体数は少ない。

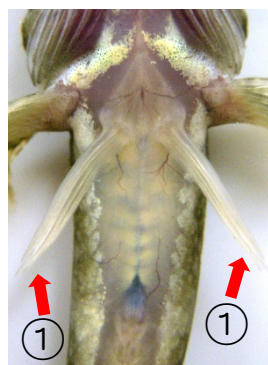
【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **絶滅危惧II類**

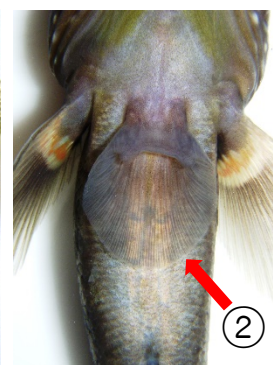
親が海に下るアユカケと異なり、本種は一生を川で過ごす。

見分け方:カジカのなかまとハゼのなかま

カジカのなかま(アユカケやカジカ)とハゼのなかまはよく似ていますが、日本産の淡水カジカのなかまにはウロコがなく、腹ビレが左右に分かれています①。一方、ハゼのなかまの多くにはウロコがあり(この図鑑のなかではミミズハゼを除く)、腹ビレは左右がくっつき吸盤状になっています②。



カジカのなかま (カジカ)



ハゼのなかま (ヌマチチブ)

カワアナゴ *Eleotris oxycephala* Temminck and Schlegel, 1845

金目川水系	鈴川水系	澁田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○		



金目川水系・下流・2017年7月20日・西巻

【全長】

15～25cm

【特徴】

体は太くがっしりとした体型をしている。体色は黒みが強い茶色で背中側は淡いことが多い①。ほほには白いはん点がある②。腹ビレは左右に分かれており、吸盤状にならない。

種子島・屋久島までの西日本に分布し、河川下流、河口域に生息する。

【金目川での状況】

金目川水系に分布し、下流で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

岩の間や流木の下、捨てられた太いパイプの中などから見つかるが、個体数は少ない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **絶滅危惧 IB 類**

現在、河口付近の汽水域は縮小し、さらには水質悪化、河口閉鎖によって生息域が狭められている。

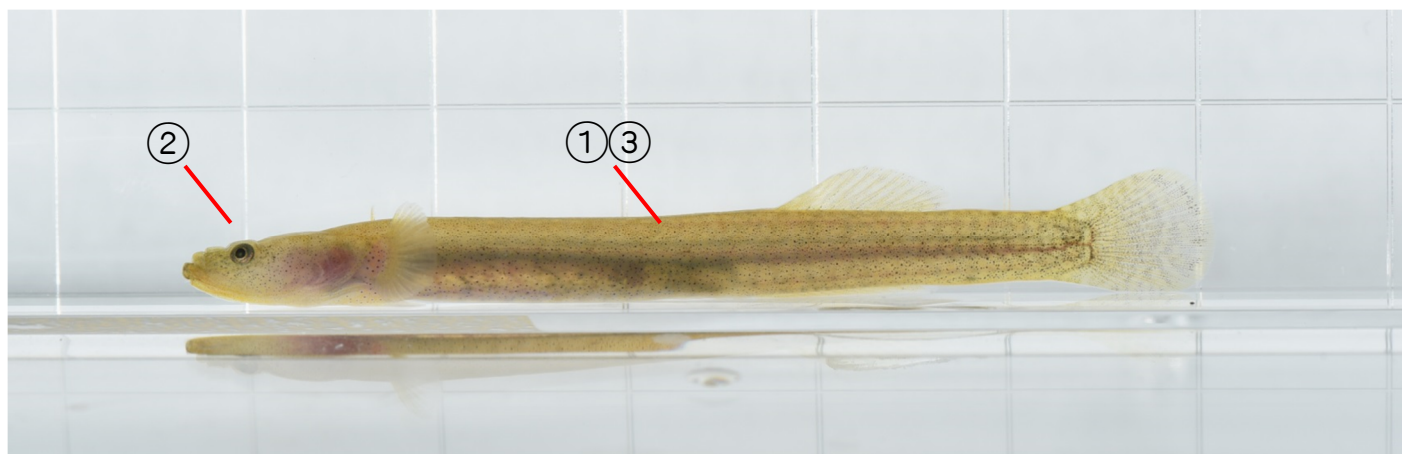
コラム:見つかるか?カワアナゴのなかま

日本には、このカワアナゴのなかまとして、ほかにチチブモドキ、オカメハゼ、テンジクカワアナゴが知られています。カワアナゴを除くこの3種は南方系の魚で、神奈川県別の河川ではすでに見つかっていますが、金目川ではまだ確認されていないようです(山川・瀬能、2015)。このなかまの仔魚は海で生活するため、今後、南方から金目川に流れつく可能性があります。これらはカワアナゴに非常によく似ていますが、ほほに白いはん点がないことや、体型がよりずんぐりしていることなどで区別できます。興味のある方はぜひ探してみてください。

ミミズハゼ *Luciogobius guttatus* Gill, 1859

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○	○	



金目川水系・下流・2016年11月11日・北野

【全長】

6～9cm

【特徴】

名前のおり体は非常に細長く①、ミミズのような体形をしている。頭はつぶれたように平たい②。体色はうすい茶色で、体には目立った模様はない③。

北海道から九州(屋久島)まで分布し、河川下流と河口に生息する。

【金目川での状況】

金目川水系に分布し、下流と河口で見られる。石の下や砂利の隙間に隠れていることが多い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

下流や河口で、水深が浅く、流れが緩やかな場所の石をめくると見つけることができるが、個体数は少ない。

【特記事項】

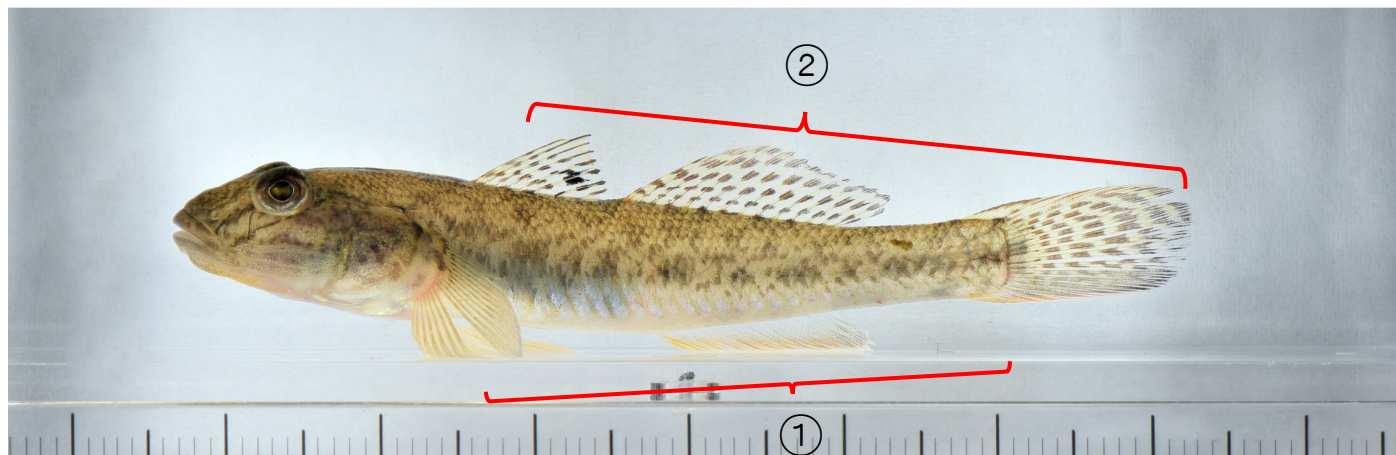
神奈川県 RDB 区分 **情報不足**

県内の主要河川の下流や河口から採集されている。神奈川県での記録は少ないが、本種の生息域は特異で淡水が流入する潮間帯にも生息する。そのため生息状況が明らかでないため情報不足とされている。また、ミミズハゼのなかまには区別の難しい別の種の存在も知られている。

マハゼ *Acanthogobius flavimanus*(Temminck and Schlegel, 1845)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	○	



金目川水系・下流・2017年5月26日・西巻

【全長】

15～25cm

【特徴】

体は細長く、頭はやや大きい。体色は黄色みがある茶色で、おなか側は白く、かすれたような模様がある①。背ビレや尾ビレにも細かくて黒いはん点が並ぶ②。

北海道の南部、本州、四国、九州に分布し、一般には内湾や河川の下流から河口にかけて生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、金目川では中流から河口まで広い範囲で見られる。河口に近づくほど個体数は多いが、渋田川水系ではかなり上の方にも見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

下流から河口にかけて、たも網による採集で普通に見つけることができる。

美味しく、釣りの対象とされることが多いが、金目川ではあまり利用されていないようである。

ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (Tanaka, 1909)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	△

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	○	



金目川水系・中流・2018年3月5日・西巻

【全長】

8～15cm

【特徴】

体は細長く、頭がつるんと丸い①。体色は灰色がかった茶色で体には黒色の太いスジがあることが多い②。

石の表面に生えた付着藻類を歯で削り取って食べる。

南東北以西の太平洋側から南西諸島に分布している。

一般には河川中流域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河

口まで広い範囲で見られる。特に金目川水系の中流に多い。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

流れの速い場所の大きめの石の下で見つかるが、個体数はそれほど多くない。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

食性と関係して流れのある瀬に生息するので、最近では河川流量の減少や河川改修の影響で荒瀬が減少しており、県内での本種の生息水域は狭められている。

コラム:ボウズハゼの吸盤

ハゼのなかまの多くは腹ビレが吸盤になっており、これを使って岩や壁にくっつくことができます。ボウズハゼの吸盤は特に力が強く、手に張り付かせると、写真のようにぶら下がることもあるほどです。キュッと張り付く吸盤の力が手に伝わりますので、観察会の際には子どもたちにとっても人気があります。



ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai and Nakamura, 1972

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	○	



金目川水系・下流・2018年3月3日・西巻

【全長】

5～15cm

【特徴】

体はややずんぐりしており頭が大きい
①。体色は黒みがある茶色でほほにはたくさん
の白いはん点がある②。

流れの緩やかなところに多いが、平瀬
にも見られる。

北海道、本州、四国、九州に分布し、一般
には河川中、下流域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河
口まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

流れの緩やかな場所の石の下で見つ
かるが、個体数はそれほど多くない。

1982年に金目川水系中流で確認され
たチチブ(浜口・林、1983)は本種の可能
性が高い。

コラム: 暴れんぼうのヌマチチブ

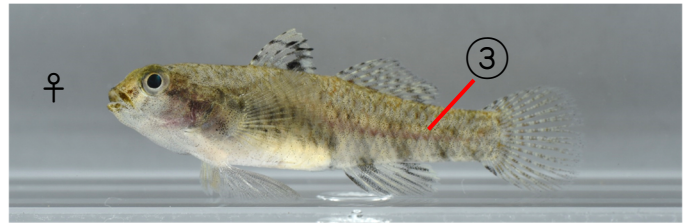
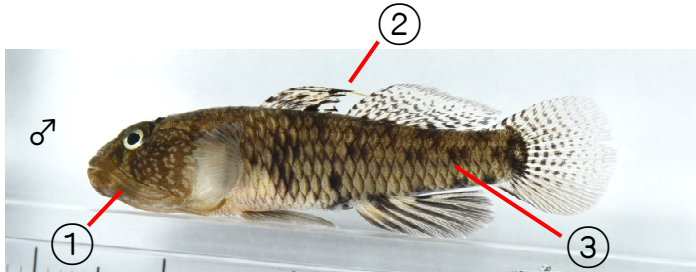
水槽で魚を飼育することはたいへん楽しいですが、種によってはおくびょうなものや、反対に攻撃的なものもあります。ひとつの水槽にいろいろな魚を飼いたいという場合には、どの魚を一緒に入れるかは注意が必要です。中でも、このヌマチチブはたいへん暴れん坊で、他の種であっても同じヌマチチブどうしであってもすぐに噛みついて攻撃します。

そこで、いろいろな魚を飼いたいときにはヌマチチブは入れないようにしましょう。でも、ヌマチチブはたいへん丈夫な魚ですので興味のある方は是非飼ってみてください。そのときは、ヌマチチブを単独で飼育するようにしましょう。

ヒナハゼ *Redigobius bikolanus* (Herre, 1927)

金目川水系	鈴川水系	澁田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
		○	△	



金目川水系・下流・2017年7月3日・西巻

【全長】

3~4cm

【特徴】

小型のハゼで最大でも4cmほどである。寸詰まりの体型で他のハゼのなかまと比べると平べったい。体色は茶色で、いくつかの黒い班紋がある。オスは口が大きくなり口裂け状になり①、第一背ビレが長く伸びる②。体に対してウロコは大きい③。

東京湾より西の太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸、福井県より西の日本海、東シナ海沿岸に分布する。

一般には河川下流や河口に生息している。

【金目川での状況】

金目川水系の下流に分布し、流れが緩やかで底に枯葉が堆積したところや草の下に多く見られる。

過去には河口でも確認されている。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

個体数は多くないうえに下流の淵など水深が深い場所に生息しているため見つけにくい。

【特記事項】

南方系の魚で、以前は神奈川県での記録は極めて少なかった。近年、東京湾では増加傾向にあるとのことで、今後、金目川でも増える可能性がある。

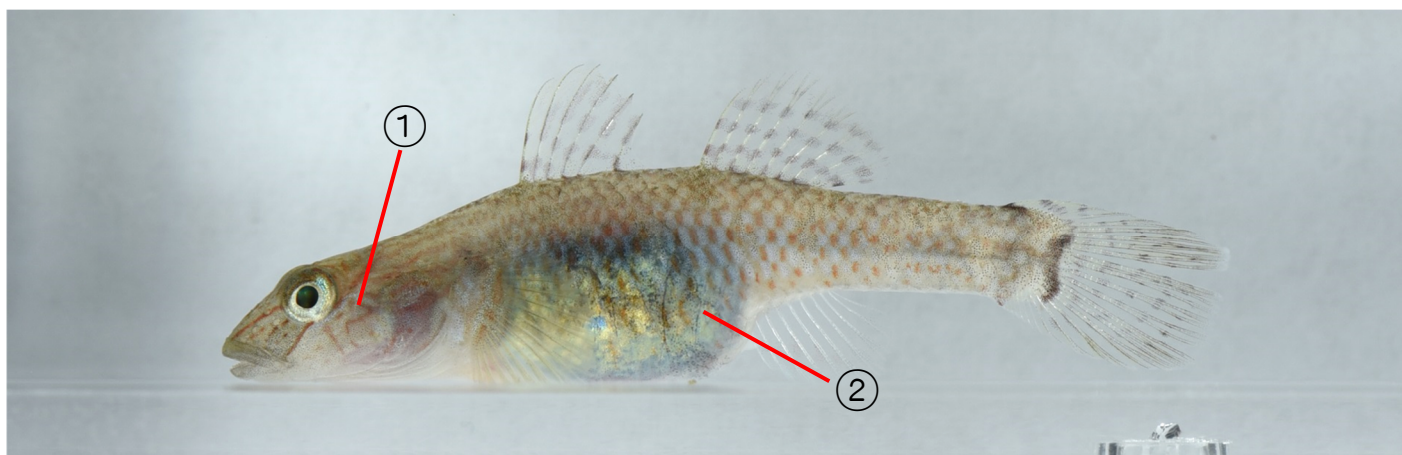
シマヨシノボリ *Rhinogobius nagoyae* Jordan and Seale, 1906

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



金目川水系・中流・2017年8月9日・西巻



金目川水系・中流・2017年6月16日・西巻

【全長】

6～10cm

【特徴】

ほかに赤色のシマ模様がある①。繁殖期の個体の腹部は明るい青色になり、特にメスはその傾向が強い②(ただし写真の個体は明るい場所に置いておいたために色が淡くなっている)。

北海道を除く全国に分布し、一般には河川中流域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られる。特に中流では個体数も多い。

【金目川での見つけやすさ】☆

金目川では最も個体数の多い魚類の一種で、流れの緩やかな場所の石の下でよく見つかる。浅い場所や小さめの石の下にもすんでおり、非常に見つけやすい。

スズキ目 ハゼ科

ルリヨシノボリ *Rhinogobius* sp.C0

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		

上流	中流	下流	河口	水田
○				



金目川水系・上流・2014年9月20日・北野



金目川水系・上流・2017年5月27日・西巻

【全長】

8~12cm

【特徴】

ほほにルリ色のはん点がある①。尾ビシの付け根には太い「ハ」の字の模様がある②。

北海道から九州まで分布し、河川上流に生息する。

【金目川での状況】

オオヨシノボリと同所で見られるが本種の分布は上流に限られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

オオヨシノボリと比べて個体数は少なく、オオヨシノボリ20個体に対し1個体見つかる程度である。

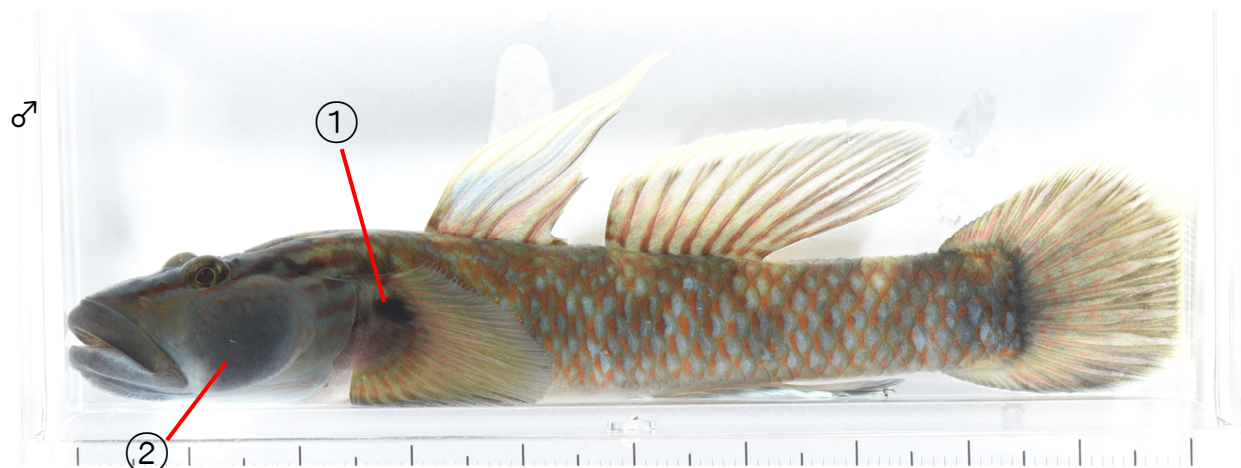
【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

オオヨシノボリ *Rhinogobius fluviatilis* Tanaka, 1925

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
○	○	○		



金目川水系・上流・2017年5月27日・西巻



金目川水系・上流・2017年8月9日・西巻

【全長】

10～12cm

【特徴】

胸ビレの付け根上部には黒色の班紋があり①、ほほには模様がない②。

本州、四国、九州に分布し、一般には河川上、中流域に生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、上流から中流まで広い範囲で見られる。まれに下流でも見つかることがある。

【金目川での見つけやすさ】☆☆

上流では普通に見られる。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

神奈川県内で分布地が限定されている。

トウヨシノボリ *Rhinogobius* sp.

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
?		○

上流	中流	下流	河口	水田
	○			



渋田川水系・中流・2010年7月20日・屋島

【全長】

4~6cm

【特徴】

ほほにめだった班紋はなく①、尾ビシの

付け根が黄色い②。

流れの緩やかな場所に生息する。

【金目川での状況】

渋田川水系の中流で確認されている。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆☆

生息する場所も限られ、個体数も極めて少ない。

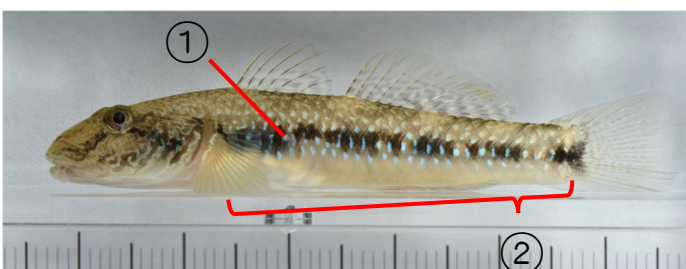
【特記事項】

トウヨシノボリのなかまは分類学的に混乱しているようであるが、ここでは単にトウヨシノボリとして扱った。

ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus* (Rutter, 1897)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○	○	



金目川水系・下流・2017年5月26日・西巻

【全長】

5~10cm

【特徴】

体にははっきりとしないが太くて黒いスジがあり①、多数のルリ色のはん点がある
スズキ目 ハゼ科

②。

本州から南西諸島に分布し、中流から河口にかけて生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から河口まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

個体数はそれほど多くはないが、下流では比較的普通に見られる。

【特記事項】

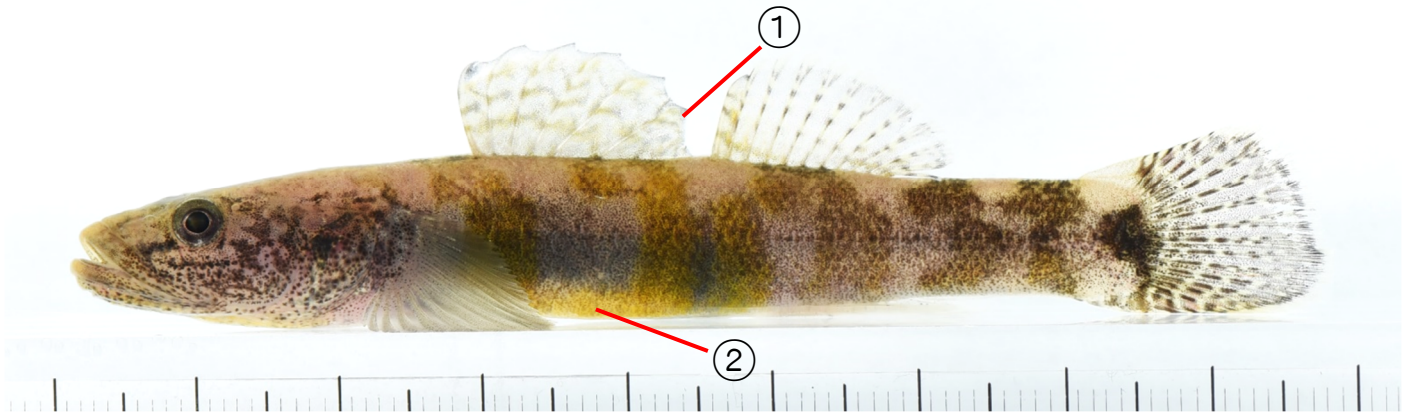
神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

神奈川県内の主要河川の下流域に生息しているが、報告例は少ない。

スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis* (Rendahl, 1924)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



金目川水系・下流・2018年3月3日・西巻

【全長】

8～15cm

【特徴】

ウキゴリに似るが、第1背ビレの後ろに黒い模様がない①。

写真の個体はメスで、繁殖期(冬～初春)になるとメスのおなかが黄色くなる②。

北海道から屋久島にかけて分布し、河川中流から河口にかけて生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、中流から下流まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆

ハゼのなかまではシマヨシノボリに次

いで個体数は多い。石の裏に産卵するため、繁殖期には石の下から見つかるが、普段は石の下ではあまり見られず、岸寄りの草の下などから見つかる。

【特記事項】

神奈川県 RDB 区分 **準絶滅危惧**

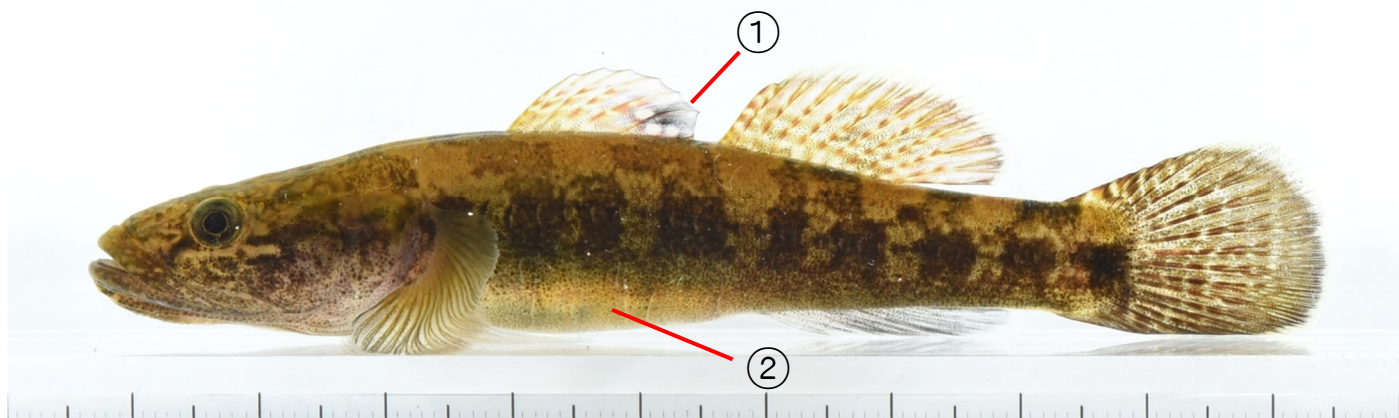
最近の生息水域は狭められつつあり、広範囲な生息域がある河川はそう多くないとされる。

かつてはウキゴリ汽水型と呼ばれ、ウキゴリよりも下流側を好むとされているが、金目川ではウキゴリよりも、より上流側まで見られる。

ウキゴリ *Gymnogobius urotaenia* (Hilgendorf, 1879)

金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○	○	○

上流	中流	下流	河口	水田
	○	○		



金目川水系・下流・2018年2月16日・西巻

【全長】

8～15cm

【特徴】

スミウキゴリに似るが、第1背ビレの後ろに黒い模様がある②。

写真の個体はメスで、繁殖期(冬～初春)になるとメスのおなかが黄色くなる②。

北海道から屋久島にかけて分布し、河川中流から河口にかけて生息する。

【金目川での状況】

いずれの水系にも分布し、スミウキゴリと同様に中流から下流まで広い範囲で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆

スミウキゴリと同様に、石の裏に産卵するため、繁殖期には石の下から見つかるが、普段は石の下ではあまり見られず、岸寄りの草の下などから見つかることが多い。下流ではスミウキゴリとまったく同所で見られることもある。ただし、本種の方が生息範囲は狭く、個体数もより少ない。

【特記事項】

かつてはウキゴリ淡水型と呼ばれ、スミウキゴリよりもより上流側を好むとされているが、金目川では中流では極めて少なく、スミウキゴリよりもより下流側で見られることが多い。

スズキ目 タイワンドジョウ科

国外外来生物

カムルチー *Channa argus* (Cantor, 1842)

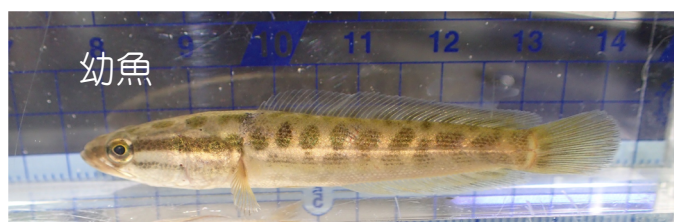
金目川水系	鈴川水系	渋田川水系
○		△

上流	中流	下流	河口	水田
	△	○		



成魚

金目川水系・下流・2017年7月28日・西巻



幼魚

金目川水系・下流・2015年8月25日・北野

【全長】

40～70cm

【特徴】

体は細長く、大きめの班紋がある。体色は大型の個体では黒みが強いが、幼魚は淡く黄色みが強い。

大型の肉食魚である。

空気呼吸をすることが知られている。

アジア大陸東部原産で1920年代ころに持ち込まれた。離島を除く全国に定着しているが、近年は全国的に減少傾向にあるようである。

【金目川での状況】

金目川水系と渋田川水系の中流と下流で確認されている。

流れの緩やかな場所で見られる。

【金目川での見つけやすさ】☆☆☆☆

個体数は少ない。

【特記事項】

アジア大陸東部原産の国外外来種である。

資料

ここでは、金目川で過去に記録があるものの生息を確認することができなかった種や写真が準備できなかった種を紹介する。

ゼニタナゴ

Acheilognathus typus (Bleeker, 1863)

過去には金目川水系の下流から記録があった(中村、1969)が、絶滅した。

ワカサギ

Hypomesus nipponensis McAlister, 1963

1982年に河口で確認されている(浜口・林、1983)

イワナのなかま

Salvelinus sp.

金目川には過去に放流された記録があり、実際に2006年に鈴川水系の上流で確認されている(金子ら、2008)。

タウナギ

Monopterus albus (Zuiew, 1793)

国外外来種

2001年に秦野市の鶴巻にある水田で確認されている(伊藤ら、2002)。

セスジボラ

Chelon affinis (Gunther, 1861)

2003年に河口で確認されている(永井ら、2005)。

スズキ

Lateolabrax japonicus (Cuvier, 1828)

1996年に河口で確認されている(勝呂ら、1998)。

ブルーギル

Lepomis macrochirus macrochirus

Rafinesque, 1819

特定外来生物

2003年に鈴川水系で確認されている(永井ら、2005)。

ギンガメアジ

Caranx sexfasciatus

Quoy and Gaimard, 1825

1982・1987年に河口で確認されている(浜口・林、1983;木村、1988)。

コトヒキ

Terapon jarbua (Forsskal, 1775)

1982年に河口で確認されている(浜口・林、1983)

クロメジナ

Girella leonine (Richardson, 1846)

1982年に河口で確認されている(浜口・林、1983)

アシシシロハゼ

Acanthogobius lactipes

(Hilgendorf, 1879)

金目川水系の下流と河口で2003年に確認されている(永井ら、2005)。

ヒメハゼ

Favonigobius gymnauchen

(Bleeker, 1860)

2003年に河口で確認されている(永井ら、2005)。

ミナミハゼ

Awaous ocellaris (Broussonet, 1782)

1977年に金目川水系の中流で確認されている(浜口・林、1983)。

クロミナミハゼ

Awaous melanocephalus (Bleeker, 1849)

詳細は明らかにできなかったが、標本による記録が残されている(中坊編、2013)。

クロヨシノボリ

Rhinogobius brunneus

(Temminck and Schlegel, 1845)

黒色型として、1981・1982年に平塚市内の万縄池で確認されているが(浜口・林、1983)、木村(1988)はトウヨシノボリの可能性を示唆している。

参考文献

- 江口勝久・中島淳・西田高志・乾隆帝・中谷祐也・鬼倉徳雄・及川信(2008):宮崎県北川の魚類相.九大農学芸誌,63(1),15-25.
- 浜口哲一・林弘章(1984):平塚市に産するフナのカテゴリについて.平塚市博物館研究報告「自然と文化」,(7),19-37.
- 浜口哲一・林弘章(1983):平塚市の淡水魚類.神奈川自然誌資料,(4),60-69.
- Hatakeyama R,Kitano T and Machida Y(2017):Growth and early gonadal development in boreal *Barbatula oreas*(Jordan&Fowler,1903)introduced into a temperate river in centralHonshu,Japan.*Biogeography*,19,35-46.
- 平塚市博物館(2014):水と生きる里 金目の風土とその魅力.平塚市博物館,平塚,62pp.
- 細谷和海(2015):日本の淡水魚.山と溪谷社,東京,527pp.
- 伊藤恵美・永田幸志・小田慶磨(2002):秦野市の水田で発見されたタウナギ.神奈川自然誌資料,(23),1-2.
- 神奈川県環境科学センター(2014):神奈川県内河川の魚類.神奈川県環境科学センター,神奈川,137pp.
- 金子裕明・糸井史朗・山崎泰・勝呂尚之(2008):丹沢山塊に生息するイワナのカテゴリと系統.神奈川自然誌資料,(29),113-120.
- 金子裕明・勝呂尚之(2011):酒匂川水系 A 沢のヤマメおよびカジカのカテゴリの保全.神奈川自然誌資料,(32),115-122.
- 片野修・馬場吉弘・大原均・河村功一・佐藤正人・熊谷雅之・竹内基・伊藤正一・富樫繁春・井上信夫(2014):国内外来魚カワムツ *Nipponocypris temminckii* の分布拡大.魚類学雑誌,61(2),93-103.
- 木村喜芳(1988):花水川水系の魚類.神奈川自然保全研究会報告書,(7),28-41.
- 三井翔太・手良村知功・三井修(2017):下山川水系の魚類相について.神奈川自然誌資料,(38),67-76.
- 森慎一(2009):平塚市南金目における金目川の中世の流路変更.平塚市博物館研究報告「自然と文化」,(32),43-49.
- 向井貴彦(2017):岐阜県の魚類.岐阜新聞社,岐阜,214pp.
- 永井紀行・齋藤和久・小林悦子(2005):金目川水系の魚類.平塚市博物館研究報告「自然と文化」,(28),1-32.
- 中坊徹次編(2013):日本産魚類検索全種のカテゴリの同定 第三版.東海大学出版会,秦野,2530pp.
- 中島淳(2017):日本のドジョウ.山と溪谷社,東京,223pp.
- 中島淳・洲澤譲・清水孝昭・斎藤憲治(2012):日本産シマドジョウ属魚類のカテゴリ標準和名のカテゴリ提唱.魚類学雑誌,(59),86-95.
- 中村守純(1969):日本のコイ科魚類.資源科学研究所,東京,455pp.
- 大塚知泰、三島聡子、石綿進一、齋藤和久、阿部明美、川原博満、佐々木園子(2007):水域の生態系保全を目的とした GIS データベースのカテゴリ構築と活用について.神奈川県環境科学センター研究報告,(30),66-69.

- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之(2010):相模川水系の魚類相.神奈川自然誌資料,(31),59-68.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之(2012):酒匂川水系の魚類相.神奈川自然誌資料,(33),103-112.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之・大竹哲男(2012):神奈川県内におけるヨシノボリ属魚類の分布.神奈川自然誌資料,(33),85-93.
- 齊藤憲治・内山りゅう(2015):くらべてわかる淡水魚.山と溪谷社,東京,127pp.
- 瀬能宏(2008):日本の外来魚ガイド.株式会社 文一総合出版,東京,157pp.
- 早田旅人(2009):近世中規模河川における治水秩序とその変容—相模国金目川を事例に一.平塚市博物館研究報告「自然と文化」,(32),1-24.
- 勝呂尚之・安藤隆・戸田久仁雄(1998):神奈川県希少淡水魚生息状況—I(平成6~8年度).神奈川県水産研究所研究報告,(3),51-61.
- 勝呂尚之・安藤隆(2000):神奈川県希少淡水魚生息状況—II(平成9・10年度).神奈川県水産研究所研究報告,(5),25-40.
- 勝呂尚之・安藤隆(1996):丹沢山塊における溪流魚の分布について—II.神奈川淡水試報告,(32),37-59.
- 勝呂尚之・蓑宮敦・中川研(2006):神奈川県希少淡水魚生息状況—III(平成11~16年度).神奈川県水産技術センター研究報告,(1),93-108.
- 勝呂尚之・中田尚宏(1995):丹沢山塊における溪流魚の分布について—I.神奈川淡水試報告,(31),67-74.
- 勝呂尚之・瀬能宏(2006):汽水・淡水魚類.神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006,神奈川県立生命の星・地球博物館,小田原.pp.275-300.
- 住倉英孝・勝呂尚之(2012):厚木市のホトケドジョウの分布.神奈川自然誌資料,(33),75-80.
- 山川宇宙・瀬能宏(2015):神奈川県内の河川におけるカワアナゴ属魚類の分布.神奈川自然誌資料,(36),63-68.
- 屋島典是・民野貴裕・北野忠(2011):金目川で採集された国内外来種のムギツクとフクドジョウ.神奈川自然誌資料,(32),109-113.

さくいん

あ行

アシシロハゼ・・・・・・・・・・4 2
アブラハヤ・・・・・・・・・・9
アマゴ・・・・・・・・・・2 2
アユ・・・・・・・・・・2 1
アユカケ(=カマキリ)・・・・2 7
イワナのなかま・・・・・・・・4 2
ウキゴリ・・・・・・・・・・4 0
ウグイ・・・・・・・・・・1 0
オイカワ・・・・・・・・・・8
オオヨシノボリ・・・・・・・・3 7

か行

カジカ・・・・・・・・・・2 8
カダヤシ・・・・・・・・・・2 4
カマキリ(=アユカケ)・・・・2 7
カマツカ・・・・・・・・・・1 5
カムルチー・・・・・・・・・・4 1
カラドジョウ・・・・・・・・・・1 6
カワアナゴ・・・・・・・・・・2 9
カワムツ・・・・・・・・・・8
ギンガメアジ・・・・・・・・・・4 2
クロミナミハゼ・・・・・・・・4 2
クロメジナ・・・・・・・・・・4 2
クロヨシノボリ・・・・・・・・4 2
コイ・・・・・・・・・・6
ゴクラクハゼ・・・・・・・・・・3 8
コトヒキ・・・・・・・・・・4 2

さ行

シマイサキ・・・・・・・・・・2 5
シマドジョウ(=ヒガシシマドジョウ)17
シマヨシノボリ・・・・・・・・3 5
スズキ・・・・・・・・・・4 2
スミウキゴリ・・・・・・・・3 9
セスジボラ・・・・・・・・・・4 2
ゼニタナゴ・・・・・・・・・・4 2

た行

タウナギ・・・・・・・・・・4 2

タモロコ・・・・・・・・・・1 3
チチブ・・・・・・・・・・3 3
テングヨウジ・・・・・・・・・・2 3
トウヨシノボリ・・・・・・・・3 8
ドジョウ・・・・・・・・・・1 6

な行

ナマズ・・・・・・・・・・2 0
ニゴイ・・・・・・・・・・1 4
ニジマス・・・・・・・・・・2 1
ニホンウナギ・・・・・・・・・・5
ヌマチチブ・・・・・・・・・・3 3

は行

ヒガシシマドジョウ(=シマドジョウ)17
ヒナハゼ・・・・・・・・・・3 4
ヒメハゼ・・・・・・・・・・4 2
フクドジョウ・・・・・・・・・・1 8
フナのなかま・・・・・・・・・・7
ブルーギル・・・・・・・・・・4 2
ボウズハゼ・・・・・・・・・・3 2
ホトケドジョウ・・・・・・・・1 9
ボラ・・・・・・・・・・2 3

ま行

マゴチ・・・・・・・・・・2 5
マハゼ・・・・・・・・・・3 1
ミナミハゼ・・・・・・・・・・4 2
ミナミメダカ(=メダカ)・・・・2 4
ミミズハゼ・・・・・・・・・・3 0
ムギツク・・・・・・・・・・1 2
メダカ(=ミナミメダカ)・・・・2 4
モツゴ・・・・・・・・・・1 1

や行

ヤマメ・・・・・・・・・・2 2
ユゴイ・・・・・・・・・・2 6

ら行

ルリヨシノボリ・・・・・・・・3 6

わ行

ワカサギ・・・・・・・・・・4 2

協力者

【写真・情報提供・調査協力など】

石井幹也、石倉雅章、一戸俊介、岡本和也、岡村祐哉、小田島樹、小野文香、河原井森、熊谷肇、今野紗貴、斉藤拓夢、佐藤雄也、鈴木理奈、澄野友輝、竹村恭平、田中詩織、谷晋、民野貴裕、寺田一美、中島淳、奈良橋伊吹、橋本徹郎、畠山類、古田友季、古川晴海、村木凌、村口恵太、屋島典是、山田一輝、渡邊恭子

(五十音順・敬称略)

あとがき

金目川水系流域ネットワークと東海大学教養学部人間環境学科の北野ゼミとは13年に亘って金目川の生き物観察会で子どもたちに川の楽しさ、生き物の面白さ、不思議さなどを伝えるために活動を続けています。

金目川にどんな魚がいるかを知らない子、金目川の楽しさを知らない子らに、又、もっと生き物のことを学びたい子どもたち、さらに、魚に興味を持っている中高生から大人まで役立つ魚の本を出版することにしました。

金目川水系流域ネットワーク 代表 柳川三郎

東海大学教養学部の教員として2005年4月に赴任して以来、金目川には研究および教育活動の場としてお世話になってきました。河川規模は大きくありませんが、その分、危険は少なく、親しみやすい川です。上流から下流まで、たも網を入れればいろんな魚に出会うことができます。この本を手にとってくださった方が、金目川のことやそこにすむ魚のことに、ひいては身近な自然や生きものに少しでも関心をもっていただけるようになれば幸いです。

なお、この本のことや、金目川の魚類に関して質問がある方は以下にご連絡ください。

〒259-2392 神奈川県平塚市北金目 4-1-1 東海大学 教養学部 人間環境学科

TEL 0463-58-1211(代)

北野忠

金目川の魚類

2018年3月31日発行

著者

西巻 肖・北野 忠

編集協力

金目川水系流域ネットワーク

金目川生き物観察会のようす

共催:金目川水系流域ネットワーク・平塚市

